

2-12

演題	コロナ禍での生活の満足度について
副題	～効果的な支援方法とは？～

法人名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉事業団
施設名	横須賀養護老人ホーム

発表者名 (職種)	勝見 康平 介護職員
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	横須賀市野比5-5-6
TEL	046-839-2738
FAX	046-839-2739
メールアドレス	yokosuka-yogo@kanagawa-swc.com
URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	神奈川県下で唯一の視覚障がいのある方を対象とした養護老人ホームです。また外部サービス利用型特定施設として、介護が必要な状態になった場合も、介護保険サービスを利用して、住み慣れた施設生活を送れるように支援しています。
---------------------------	---

研究の目的、PR ポイント

コロナ禍の前は外出や外泊等楽しまれていたご利用者がたくさんいましたが、現在はコロナの影響で高齢者施設ということもあり面会や外出制限、ホームの行事等の中止・縮小等の中で「いつになったら自由な外出が出来るの?」と話すご利用者を見て、職員として何か出来る事はないか考えるようになりました。ご利用者はこの現状で何を求めているのかを把握したうえで、ご利用者の満足度を上げるための支援を考えていく。

取り組んだ課題

コロナ禍の影響によるご利用者の生活の質や満足度は低くなっていると考え、どうすれば生活の満足度を上げる事が出来るのか。ご利用者が求めている事を明確にして実践に移すことで生活の満足度はどのように変化するのかについて取り組みました。

具体的な取り組み

ご利用者に研究の趣旨や内容の説明を行い、協力していただけたご利用者にインタビュー調査を実施しました。インタビューでは、コロナ前後での「満足度」や「生活状況」、「今やりたい事」等の質問を行い、その中で「外出がしたい」という意見が多くありましたが、コロナの情勢からまずは施設内で出来る事を考えるため、他の意見より「気分転換がしたい」「楽しみがほしい」「人と交流したい」という意見もありました。具体的な内容伺っていくと「ゲームやクイズがしたい。」という意見が出てきたため「レクリエーション」を取り上げ、希望のあったご利用者に絞って、グループ分けし全4回でレクリエーションを実施しました。また、「レクリエーション」の実施前後に満足度と生きがい意識尺度を使用した聞き取りを行い効果測定を行いました。「レクリエーション」実践後に、コロナの情勢が落ち着いてきたため、最も意見が多かった「外出」についても実施しました。

活動の成果と評価

「レクリエーション」や「外出」のいずれも実施前よりも実施後の方が満足度や生きがい意識尺度の数値

を上げる事が出来ましたが、それ以外にも「職員」「心身機能」という付随した要素も関連して生活の満足度を上げる事が出来た事が分かりました。限られた時間の中でも、ご利用者も「楽しかった。」と喜ばれており、今回の実践について大きな効果があったと言えました。

今後の課題

「レクリエーション」や「外出」について短い時間での実践でしたが、今後も継続的に行った場合にはどう変化するのか、レクや外出以外にも生活の満足度を上げる事が出来る支援方法があるのではないかも考えます(例えば、フロア行事等の企画や運営について、ご利用者と共同で実施していく等の役割のある生活を支援していく)。今回実証した内容も踏まえ、ご利用者の生活の満足度を上げる事が出来る一番の支援方法について、今後も模索し実践していきたいと考えています。

参考資料など

- 「生きがい意識尺度の信頼性と妥当性の検討」
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jph/59/7/59_433/_article/-char/ja/
- 今回使用した「生きがい意識尺度」の様式
https://note.com/pupu_ssc/n/n587ef5c96fd5